

## 医療安全委員会『MRI 勉強会』

2019年4月16日・26日

医療の中の放射線は、重要な検査になっています。先日、当院では検査を安全に行うために、MRI 検査の勉強会をしました。X線を使用しないMRIは強力な磁場での吸引事故や、低温やけどに対する注意が必要になります。今回、皆様に少しでも参考になれば幸いと思ってお話させていただきたいと思います。



まず、MRIとは、Magnetic Resonance Imaging（磁気共鳴画像）の略で、筒状の大きな磁石に入り、磁場と電波（ラジオ波）を用いて検査をします。おもに、脳、脊髄、関節、骨盤など得意とし、血管も写し出すことも出来ます。X線を用いないので、被ばくもありません。

MRI 検査室内は、常時（24時間）磁場が発生し続けています。そのため、MRI 検査室内に金属（磁性体）は持ち込めません。もしも誤って持ち込めば、装置に引っ張られ（飛んでしまったり）、吸い付いてケガや事故につながってしまいます。ストレッチャーやベッド、業務用掃除機、など重いものでも簡単に吸着するほどの力です。検査のまえには、必ず、問診（チェックシート）で確認しています。

閉所恐怖症、心臓ペースメーカー、除細動器、人工内耳、脳動脈瘤クリップ、マグネットインプラント、刺青などは特に注意が必要です。

(禁忌事項に該当するものもあります) 取り外していただくものは、携帯電話、時計、磁気カード、入れ歯、補聴器、ヘアピン、カイロ、カラーコンタクト、マスクなどです。

詳しいことは放射線科(診療放射線技師)に、いつでもお尋ねください。

検査時間は、20分～30分程度(検査によってはそれ以上)です。

そのあいだは、動かないようお願いいたします。(動きがあると画像がブレて正しい診断ができません)

場合によっては、造影剤(よりよく病気がわかるため)を使用することもあります。



MRI検査は、疾病に対する必要な検査です。侵襲は、とても少ない検査です。

しかし、実施にあたり十分な注意が、不可欠な検査でもあります。

どうかご協力をお願いいたします。

今後も院内での勉強会を継続して皆様の安全を守っていきたいと思っています。

横浜鶴ヶ峰病院 放射線科主任 綿貫 務